

編集・発行：福岡大学附属大濠高等学校新聞部

福岡市中央区六本松1-12-1

印刷：株式会社ハザマ印刷

2～6面 報道 部活動 バスケ部、柔道部など

7面 卒業生特集 世界陸上出場

8・9面 水俣特集 水俣・福岡展

10・11面 校内特集 関東修学旅行

12・13面 裁判員特集 経験者の声、模擬裁判

14・15面 特集 閉館直前 中洲大洋映画劇場

16面 大濠生特集 女子運動部の活躍

展望台

12月の中頃、編集会議で自分が表紙のコラムを書くことが決まった。当初は、自分が持っていた知識をもとに評論文を書こうとした。しかし、

読者に何を伝えるのが定まらず難航した。そこで方向性を変えて、大濠生の共感を得られるように自分がこれまで体験してきたことを題材として書こうと、これまでの16年間の人生を振り返ってみた▼まず人生で楽しかったことを挙げようとしたが、特別にこれといったものはない浮かばなかった。逆に失敗したことや挫折した経験を振り返ろうと思ったが、中学生の時に内

申点が低かったことくらいしか思い付かない。なんて起伏のない16年だったのだろうか。自分のことを自発的に動いてきた人間だと思っていただけに、もやっとした。なんだか自分が酷くつまらない人間であるような気がした▼コラムがなかなか進まず、夜遅くまで部屋に残る日々が続き、心身ともに疲労がたまっていた。しかし、冬の寒さで芯まで冷え込んだ体を引きずりながら家に帰ると、温かい夕食が家族の「お帰り」という声と共に私を出迎えてくれた。家族と食卓を囲んだ私は、心が満たされた気がした。一度は自分の人生を起伏がなくつまらないもの

だと感じたが、それはそこまで悪いことでもないかもしれない▼私は生活が困難になるほどお金に困ってはならず、3食満腹まで食べることもでき、暖かい布団で寝ることもできる。ほんの小さなことが、私にとって幸せなことなのだと思っていた▼私たちは夢や目標に縛られて幸せのハードルが上がってしまい、日々の小さな喜びを見つけないことが苦手になっているのかもしれない。特別大きな喜びはないが、その代わり深い絶望もない。そんな平凡な人生でも十分に幸せなのではないか。日々の生活にある小さな幸せを大切に噛み締めたい。

(弥富)

吹奏楽部 全国大会銀賞

伝統をBLOODで受け継ぐ

12月10日にさいたまスーパーアリーナで、マーチングバンド全国大会が開催された。吹奏楽部は高校の部・中編成に出場し、4位に相当する銀賞を手にした。部長の寺島采希さん(2年)は「本番直前に体調不良者が多くなり、全員揃っての練習がなかなかできなかった。金賞のなかでも上位を取る事が目標だったのでもっと悔しい」と話した。

今年度のショウタイトルは「BLOOD」。大濠の伝統が血液として流れている、という意味を込めている。寺島さんは「心臓を彷彿させるサウンドが迫力を出している。また、ギミックを取り入れたので視覚でも楽しめる」と話した。

1曲目の「The Red machine」は、2020年のショウ「HANDS」で演奏した3曲のうちの一つだ。2020年度は全国大会がコロナ禍で中止になった。そのときの3曲全てを全国の舞台上で披露するために、2021年度から1年ごとに1曲ずつ使用。そして、今年度で「HANDS」の全曲を全国大会で演奏し終えた。(古田)



音に合わせて全身で魅せる

国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテストに西嶋彩香さん(中学1年)が「核兵器のない世界」に向けて国際社会ができることは何か」と題した作文を応募し、外務大臣賞(最優秀賞)を受賞した。西嶋さんは春休みにニューヨークへ行き、国際連合本部の視察や国連関係者との懇話を行う予定だ。

西嶋さんは「広島市の平和記念資料館を訪れた際、戦争をより身近に感じ、この想いをもっと多くの人に伝えたいと思った。平和記念資料館を訪れた外国人の方々のインタビューを参考にしたい」と話した。(弥富)

全国・世界へ中学生の飛躍



校長室で授賞式を行った

西嶋さんは「広島市の平和記念資料館を訪れた際、戦争をより身近に感じ、この想いをもっと多くの人に伝えたいと思った。平和記念資料館を訪れた外国人の方々のインタビューを参考にしたい」と話した。(弥富)

軟式野球 九州大会で準優勝

新チーム滑り出し順調

軟式野球部は、10月29日から11月1日にかけて開催された九州高校軟式野球大会に出場し、準優勝を収めた。

初戦の津久見(大分)戦では松原佑樹さん(2年)が6イニングを、辻快翔さん(2年)が3イニングを無失点に抑える見事な投手リレーで5対0と完封勝ちを収めた。準決勝の文徳(熊本)戦でも3対1と競り勝ち決勝へと駒を進めた。しかし、決勝の筑陽学園(福岡)戦は1対7で敗れた。大会を振り返ってキャプテンの辻さんは「新チームで初めての大会だったが、九州大会まで勝ち進むことができた。不安



開会式に臨む選手たち

も大きかったが、チームで力を合わせて準優勝という成績を収めることができた」と感想を述べた。(吉田)

き、12月3日に横浜で行われた全国大会に出場した。全国大会で阿部さんは「歌劇『ファウスト』の主題による華麗なる幻想曲」を演奏した。阿部さんは「聞いてる人が綺麗だと思えるように、旋律のフレーズをなめらかに繋げることを意識した」と話した。今後の目標について「コンクールの結果にとらわれず、感動を与える演奏をしていきたい」と熱意を見せた。(古田)



阿部眞歩さん 美しい音色を奏でる

弁論部 3年連続 全国総文出場決定



弁論部の野瀬彩峰さん(2年)は12月7・8日に大分県で開催された福沢論吉記念全国高校弁論大会に出場し、優秀賞の中津三田会長賞を受賞した。また、堀尾南月さん(2年)は、11月4日に開催された福岡県高校総文祭弁論部門に出場し、最優秀賞を受賞した。これにより、7月31日から8月2日にかけて岐阜県で開催される全国総文祭への出場が決定した。さらに、太田勲胤さん(1年)が12月8・9日に大分県で開催された九州総文祭弁論部門に出場し、2位に相当する優秀賞を受賞した。野瀬さんはマイノリテイ

にスポットを当て、多様性に縛られて自分の生が見つめられていないことに問題提起した。堀尾さんは自身が参加したことも食堂のボランティアの様子から、誰かの犠牲のもと成り立っているボランティアの、あるべき姿を熱弁した。

野瀬さんは「最近になって弁論をやり始めた。大会自体に出場するのが初めてだったが、伝えたいことを表現できた。緊張はしなかった」と振り返った。堀尾さんは「野瀬さんと太田さんの活躍に刺激をもらって、自分もさらに成長したい。賞や順位にとられずに、聴衆に伝えたいことを届けられるよう練習する」と全国大会に向け意気込んでいる。(野見山)

文芸部 福岡県散文部門最優秀賞 金子美琴さん

自分を探す物語



次はファンタジーを書きたい

福岡県高校文芸コンクール散文部門にて、金子美琴さん(1年)が最優秀賞を受賞した。これにより、8月2日から4日にかけて岐阜県で行われる全国総文祭と、12月13・14日に開催予定の九州高校総合文化祭への推薦を受けた。

題名は「貴方と共に眠る独自」。舞台は大正時代の日本で、主人公の朴は在日朝鮮人だ。朴は祖母が人気が主題の小説を自己表現として書いている。朴は王と会話を重ねるうちに祖母の死と向き合い、差別や偏見のなかで自身のアイデンティティを見つけていく。

金子さんは「約2ヶ月間かけて制作した。歴史的背景や当時の日本人の心情を調べるが大変だった。自分の文章が認められて嬉しい」とこやかに話した。(古田)

だ。朴は祖母が朝鮮半島で亡くなったことを受け入れられず、怠惰な生活を送っていた。朴と一緒に住んでいる王は在日中国人で、在日朝鮮人が主題の小説を自己表現として書いている。朴は王と会話を重ねるうちに祖母の死と向き合い、差別や偏見のなかで自身のアイデンティティを見つけていく。

写真部 思い出の1枚で大賞受賞

秋に行われた福岡県高校総文祭写真部門で長谷川楓さん(2年)が最優秀賞を受賞し、夏の全国総文祭への出場が決定した。受賞作は、長谷川さんが家族と韓国へ旅行に行った際に撮影したものだ。ソウルのトンデムン(東大門)地区の昼下がりの路地を切り取った1枚は、古い町並みの寂しげな雰囲気と溢れ、趣が感じられる写真となっている。長谷川さんは最優秀賞受賞について「日本ではなかなか撮れない入り組んだむき出しの電線が気に入り応募する作品に選んだが、大賞を取れるとは思わなかった。自分にとって思い出の1枚なので、受賞できて素直に嬉しい」と喜びを滲ませながら話した。

来年岐阜で行われる総文祭については「カメラが好きなのが集まるだろうからとても楽しみだ。カメラ



題「レトロタウン」

が趣味の人が写真部以外で周りにいないので、総文祭では良い刺激が受けられるだろう。全国の写真部員とたくさん交流して自分の成長の場に来たい」と期待を膨らませた。(水沼)



札を取る強い音が響く

30年たったら一晩ごと！福岡大学附属大濠高等学校同窓会

福大大濠高校 第71回大同窓会

- 日時 令和6年5月25日(土) 受付開始17:00/開演18:00
- 会場 キャナルシティ博多内グランドハイアット福岡

同窓会には以下の支部があります

- 関東、東海、関西、糟屋、筑紫、久留米つつじ会、
- ◎懇親会や母校クラブの応援等を行っています。

会長 浅田 雅宏 (20回卒)
事務局 福岡市中央区六本松1-12-1
TEL 092-714-1681
E-mail info@ohsa.jp
HP http://www.ohsa.jp

KIMURA

木村カバン店

カバンならお任せを！
気楽にご来店ください！

福岡市中央区天神 2-9-114 tel 092-741-2429

書道部

40字に魂込め 県最優秀賞

書道部の上原圭貴さん(2年)は、岡垣町で行われた福岡県高校総合文化祭書道部門揮毫大会に出場し、最優秀賞を受賞した。大会では、その場で与えられた14形式17種類の古文や漢文の中から一つを選び、2時間以内で作品を仕上げることがある。上原さんは、正岡子規作の五言律

大分市で行われた、全九州総文祭書道部門に出場した。しかし、残念ながら入賞には至らなかった。上原さんは「疎密を作ることが表現力を高めることが課題だ」と話す。疎密とは、文字の中に伸びやかな部分と引き締まった部分が併存することを指す。文字の趣を引き立てる大切な要素だ。今後は、8月に行われる高校生国際美術展での入賞を目指し練習を続ける。(四宮)

囲碁部 加藤広誠さん 県大会4位 九州大会は強者揃い



数手先の盤面を考える

加藤広誠さん(1年)は、10月1日に純真高校で行われた福岡県高校総合文化祭囲碁部門県大会に出場し、9路盤戦で3位を取った。また、10月7日に西南学院高校で行われた全九州高校総合文化祭県予選会で19路盤戦の4位に入賞し、九州大会に出場した。12月9・10日に大分県で行われた九州大会では2勝3

敗となった。加藤さんは「県大会は選手の実力の差が著しかった。参加人数も少なかつた。一方で、九州大会は全員が強く、参加者も多かった。全国大会は九州大会で全勝しないと出られないくらいのレベルだ」と語った。加藤さんは小学生低学年のときから近所の公民館で囲碁をしていたそうだ。「囲碁を打つのは数学のような感覚だ。慣れると簡単なもので、もっと入部してほしい」と話す。(古田)



県で指折りの腕前の上原さん

新聞部

全国で認められる

大濠新聞

新聞部は全国高校新聞年間紙面審査賞の一次審査で入賞した。これにより、8月1日から3日に行われる全国高校総合文化祭(岐阜大会)へ出場する。前編集長の江藤杏樹さん(3年)は「昨年度に引き続き入賞できて嬉しい。校外へ行って取材したり、企画を詰めたたりした努力が認められたようで誇らしく思う」と語った。

今年度からは例年よりもさらに読者を意識して、選挙や公害問題などの記事を制作した。締め切り直前まで修正が多く大変なこと多いが、部員同士で助け合って作り上げる。江藤さん

は4つのグループに分かれ、福岡武道館や科学館の周辺を見て回った。その後、どうしたら町が良くなるかグループごとにアイデアを出し、発表した。草ヶ江小学校の生徒と保護者のグループは、小学生らしい自由な発想と可愛らしい発表を



トップの証を手にした

耳より

住民と作る草ヶ江校区

12月10日、草ヶ江公民館で草ヶ江校区まちづくり協議会主催の「このまちをもっとおもしろくしよう!まち歩きとまちづくりワークショップ」が行われた。福岡武道館を取り壊した跡地に、福岡県立美術館が移転し、2029年に開館予定だ。この機会に地域を見つめ直し、より良くしようと呼びかけられた。本校生徒会執行部・新聞部員や地域住民合わせて30人程度が参加した。参加者

は4つのグループに分かれ、福岡武道館や科学館の周辺を見て回った。その後、どうしたら町が良くなるかグループごとにアイデアを出し、発表した。草ヶ江小学校の生徒と保護者のグループは、小学生らしい自由な発想と可愛らしい発表を



小学生「アーケードがほしい！」

協賛会については、代表の武田紀夫さんは「我々の活動は約30年前、九大六本松キャンパス移転を機に始まった。そのとき、まちづくり協議会は地域を代表して電柱の地中化や、現在の裁判所周辺の緑豊かな広い歩行者空間を提案し、実現した。大濠生も次年度のワークショップに参加して、高校生の視点から意見を述べてほしい」と話した。(大坪)

校内食堂

すずらん



- ・Aセット ... 480円
- ・Bセット ... 420円
- ・カツカレー ... 410円

リボリ Rivoli



福岡市中央区鳥飼2丁目1-1 大濠公園前交差点角

Since 1956 材料費の高騰による商品の値上げ、申し訳ございません。

卒業生特集48回

ひよんなな出会いから

トップアスリートへ

今回の卒業生特集では、筑波大学4年生の今泉堅貴先輩を特集する。今泉さんは短距離ランナーとして国内外で活躍している。大濠での生活や、大学の陸上生活を聞いて。*写真は今泉さんより提供 (野見山、水沼)

陸上に向き合った6年間

中学1年生の林間学校の際、陸上部顧問の宮口重矢先生から「良い走りしてるね、陸上部に入りなよ」と声をかけられた。その一言が陸上を始めるきっかけだった。小学校でサッカーをやっており、足に自信があったため入部を決めたという。練習時間は長くなかったものの、内容はとてもきつくと先生も怖かった。苦しいことも多かったが、数値で自

分の成長度合いが分かる陸上にどんだんのめり込んだ。中学2年生でリレーのメンバーとして、さらに中学3年生の時には200mで全国大会に出場した。県に200mで日本一の選手がいたため、高校で今泉さんは新たに400mに取り組み始めた。400mは200mとは異なり、ずっと全力で走ることは難しい。転機となったのは、高校2年生の秋



プロフィール

19期生で大濠中学に入学し、陸上部に入部。3年時に全国大会に200mで出場するも予選敗退。高校で400mに転向。3年時に400mでIHに出場し5位入賞。その後、推薦で筑波大学に進学。4年時に男女混合4x400mRでアジア選手権に出場し、日本新記録で銅メダルを獲得。自己ベストは400m 45秒54

目標はパリ五輪に

個人&リレーで出場

今泉さんは大学に入学して、周りの部員から多くの刺激を受けたという。「私とは比べ物にならないくらい、日本代表クラスの選手がたくさんいた。最初は

萎縮していたが、質問するといろいろ教えてくれて、引く張つてもらえた」と述べた。大学での飛躍の要因を聞くと「大濠で身につけた基礎を土台に、大学では成績がアップした。宮口先生の指導する練習メニューが自分にぴったりだった。当時は、意味があるのか分からない練習もあったが、今となってはともありがたく思っている」と感謝した。また、今泉さんは4年生になってキャプテンに選ばれた。今泉さんは「前キャプテンが雲の上のような存在だったため、最初はプレッシャーもあり自分に務まるか不安だった。しかし、だんだん板につ

の大会だ。競技中に、前半を楽に速く進むコツを掴むことができ、自己ベストを大幅に更新した。今泉さんは「走りのイメージが鮮明になった気がした瞬間だった」と振り返る。その後の練習でもスピード感を覚えたまま走ることができ、自信がついたという。高校3年生の春、今泉さんは窮地に立たされた。足

を怪我してしまい、IH出場が危うくなったのだ。陸上の推薦で大学に進学しようと考えていたため、IHに出られなければ進学も厳しくなる。強い不安と焦りに襲われた。そんな今泉さんを救ったのは周りの人の献身的なサポートだという。「怪我の治療をしてくれた病院の先生はもろもろのこと、チームメイトにもとても助けられた。自分の帰る場所を守ってくれて本当にありがたかった」と感謝の気持ちをこぼした。怪我から復帰



大濠の体育祭で走る今泉さん(左)

した後も、懸命なりハビリの甲斐あってギリギリIH予選に間に合った。今泉さんを含めたリレーのチームは「全国出場は確実」と言われるほど強く、全国制覇を目標にしていた。しかし、IH予選の北部

九州大会で悲劇が起こる。競技の途中、2人目の選手が他校の選手と接触し、バトンを落としてしまったのだ。今泉さんたちは敗退し、IHへの切符を逃した。かなりの心理的ダメージを受けたという。今泉さんは「当時はバトンを落としたメンバーに対して軽々しく『お前のせいじゃない』と声をかけられるような雰囲気ではなく、在学中には話題にも出さなかった。でも今となっては笑い話にまで昇華できているし、それも青春だったと思う」と懐かしそうに語った。

いてきて視野が広がり、成長できた」と振り返った。今泉さんは世界大会にも出場した。去年8月にハンガリーのブダペストで行われた世界選手権には、多くの世界記録保持者が参加していた。今泉さんは、他の選手のウォーミングアップの様子に特に気になった。後に動作などを真似し、自分に合っていたものは積極的に取り入れた。特に印象に残っている選手は、ボツワナのテボゴ選手だという。「とてもリラックスしていて、自然体だった。しかし、試合になると表情が変わる。常人では考えられない」と絶賛した。



学生陸上選手権で銀メダルを受賞

て練習している。400m44秒77を目指している」と意気込んだ。最も感謝している人を聞くと「やはり両親だ。試合会場が外国でも必ず足を運んでくれる。手を振ると返してくれ、良い成績を取ると一緒に喜んでくれた」と語った。

最後に、大濠生へのメッセージとして「何事も結果にとらわれすぎずに、楽しむ心を忘れなさい」と話した。

水俣病問題を通して自身を問い直す

10月7日から11月14日にかけて福岡アジア美術館で水俣・福岡展が開催され、約1万1000人が足を運んだ。若男女が、自分たちの過ごしてきた年代と水俣病の歴史とを比べながら熟考した。会期中20回以上行われた講演の締め括りに、著名な水俣病患者の緒方正人さんによる「チツンは私であった2023」が行われた。講演の整理券に並ぶ人で行列ができ、開演1時間前には定員の100名に達した。(秦、水沼、野見山)

緒方正人さん講演 水俣病闘争から 現代社会を読み解く

闘争の最前線から 突如身を引く

緒方正人は「小学校に入学する前に、父が亡くなった。このことは私にとって衝撃の事件だった。ネットで頑健な漁師であった父が、水俣病を発症して歩くことも話すこともできなくなり、けいれんが止まらず部屋中を転げ回っていた。そして2ヶ月もしないうちに劇症型で亡くなった。かけがえのない父親を殺されて、チツンに対する恨みが現れた」と話した。

そして1973年から漁民の一員としてチツンに対する抗議活動に取り組んだ。初めて参加したとき漁業関係者らは、原材料の搬入を止めるため漁船を数珠繋ぎにしてチツンの専用港を封鎖した。緒方はチツン工場の正門前に座り込みをした。「このころは水俣病の加害企業と、直接向かい合った。そのため、込み上げてくるものがあり、闘志がかき立てられた。そのときの記憶は鮮明に覚えている」と語った。

さらに1975年からは、水俣病患者の認定運動に従事してきた。だがそのなかで、県や国といった目に見えない相手と、しかも裁判という手段で争うことになつた。そして1985年に自身の認定申請を取り下げた。

制度で、ごまかす 社会への抵抗

緒方は「水俣病という病氣も患者も、生命ではなく制度的な存在として扱われている。かつての闘争では加害者チツンの責任が問われていると思っていた。しかし、国や県と戦っているうちに相手は誰なのかわからなくなつた。最初は父の敵討ちであったのに、たらい回しにされ、次々に新設される仕組みのなかで歯がゆい思いをし、実体的ない現象的な政治社会にうんざりした。そこに真実はないことに嘆き、苦しみ、狂った」と振り返った。自身も便利さを追求するという近代の価値観に構造的に取り込まれていること、そこから抜けようとしてもなかなか抜け出せないことに気づいて苦しんだ。例えば、チツンが原料を製造しているプラスチック製品を使いたくない、買いたくないのにそういう生活はできない。そして緒方は「以前はチツンを自分の外側に見てきた。しかし、豊かさ



自然環境の一部として人間らしく生きたいという緒方正人

を求める現代社会は私たちが自身なのではないかと思うようになった。チツンとはもうひとつの自分だった」という結論に達した。

「狂った」というのは、例えばテレビを放り投げて壊した。自分に対して一方的に指示してくるものに拒絶感を感じたという。緒方は「狂った」先に、自然のなかで生かされているという感覚を持つようになった。また、命あるものをとってきて食べ、ことに詫びをせずにはいられなくなった。それから、自分が生まれ育ち、今住んでいるところを初めて、ねじこだと思ふようになった。そのことは緒方に安心感を与えた。だから自然を何とか守りたい、これ以上壊したくないと思つた。「人間社会が生み出したきた核ぎはもともととを辿れば、自然界のおかげだ。これからの社会は、インフラ整備や子供たちへの手当ともう一方、海や山や川の再生のためにもお金を使うべきだ」と話



エコパーク水俣から不知火海に向かって沈魂の祈りを捧げる魂石

自然の命と つながる思い

本願の会は1994年、緒方正人さんから17人の水俣病患者が発起人となって立ち上げた。緒方は「裁判を終わらせていくなかで今後も残っていく根源的な運動を残していきたいという思いで発足した」と話した。本願の会は魂石(当初は「地蔵」として建立したが、特定の宗教観に基づくものではないという意図で呼び方を変更)を制作した。祈りをささげ、多くの人に悲しい水俣病の想いや痛みを伝えていくことを目的としている。かつては水俣湾の一部で、水銀へドロを埋め立てたエコパーク水俣に、魂石は海へ向かって設置されている。昨年9月、新たに7体が追加され計60体になった。魂石には、水俣病研究の第一人者として患者の救済に半生を捧げた原田正純さんが制作したものや、胎児性水俣病患者を模したものもある。



胎児性水俣病の子を慈しむ親を表した魂石

水俣展ボランティア 認識変わる

インターアクト同好会の上田景子さん、稲積碧生さん、杉田夢咲さん、児嶋菜緒さん(いずれも2年)の4人は水俣・福岡展の運営ボランティアに参加した。きっかけは顧問の先生に参加を勧められたことだ。今までは清掃活動や募金活動しかやったことがなかったため、別の形でボランティアに参加したいと思い、4人で申し込んだ。



多方面で活躍する上田さん(左)と稲積さん(右)

ターを貼つてもいいか町の人に直談判した。温かい対応をして頂きとても感謝している」と述べた。一方でボスターの色が黒いため、イメージが損なわれると断られることもあったそうだ。また、児嶋さんの担当とは別の地域では、ボランティアスタッフフが怪しく見えたのか、警

察に通報されるトラブルも発生したという。会場での書籍販売に参加した稲積さんは「訪れた人が、水俣の地に詳しくあったり本の作者と知り合いだったりしておもしろい話が聞けてよかった。県外や海外から来た人もいて、いい経験になった」と話した。

水俣展の展示も間近に見て、非常にインパクトが強かったと振り返った。上田さんは「生々しい描写が多かった。展示室を回ったあとにはとても疲れたが、水俣病の実態を知れたことはとてもよかった。患者側とチツン側との両者の言い分が紹介されていたので中立の立場で考えることができた」と展

示を見た感想を述べた。

水俣展開催の意義について、杉田さんは「現代でも同じようなことが起きる可能性は十分にある。悲しい歴史を繰り返さないためにも、皆に水俣病のことを詳しく知ってもらうという意味でも大切なことだと思ふ」と語った。展示を見た後はより水俣病を身近な問題として考えることができたといい、最後に「水俣展のように、校外のボランティアに参加することで物事の見方を変えることができる。教科書のなかだけの出来事という認識を改めて、詳細をもっと知るべきだ」と4人全員でボランティアへの参加を呼びかけた。

部説 当事者ではないが 他人事ではない

へドロだが、人間の精神性も大きく関わっている。人命よりも自社の利益を優先するチツン、余りにも杜撰な行政の対応、病気の恐怖からくる患者への偏見と差別、テキトウな調査だけで原因を決めつける有識者。これらが複雑に絡み合い、水俣病は大きな大きな問題となった。

これらの事実を生徒に知ってもらいたいと部で記事にすることを決意したのは、いかにせん記事になった。

取材で水俣の地を訪れたとき、水俣病をタブー視する空気をひしひしと感じた。もう過去を掘り返したくないと考える人も多いからだ。辛い事は忘れたいと考えるのは当然の事だ。だが、忘れてはいけないことも

ある。私たちに当事者ではないからこそころ見えてくることがあるだろう。

水俣病に限らず、人間の業に起因する問題は決して他人事ではない。当時の状況を思い出さない私たちに、水俣病を語ることは勇気がいる。完全に消化することも難しい。それでもこれは起こりうる未来であると認識し、話し合いを続けることで、将来の被害を未然に防ぐ事に繋がる。私たちが新聞部はこの水俣病特集をその第一歩と位置づけている。前号と今号の水俣病の記事を通して、皆さんのなかに何か感じられたものがあれば嬉しい。(水沼)

TATEISHI 【大濠中・高等学校購買部】
株式会社 立石 売店
文具・学校指定・教科書・その他
TEL 092-753-7750

修学旅行 青春彩る 充実の5日間

臨機応変な動き 一方で乱れも

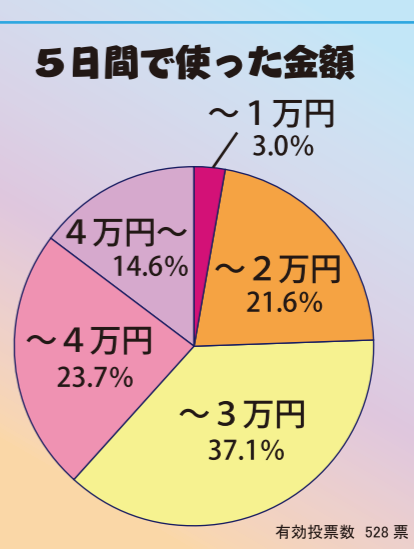
【コロナ故に海外断念】
 関東への修学旅行は、2014年度以来8年ぶりだった。行き先を決める際、海外と沖縄県はコロナ患者が出た場合、帰福が困難となることから除外された。また前回の行き先である北海道も、貫生が中学3年生の時に修学旅行で訪れていたため除外され、関東に決定した。前田先生は「向こう2年度は関東に行く予定だ。今回はその初年度であったため、細かな動きの予測が難しかった。しかし、A団で生じた問題点や懸念点をB団に随時報告することでB団ではより安全に楽しめるように調整できた」と話した。

【浮彫りになった課題】
 修学旅行中、疲れが溜まった様子の生徒が多く見られた。今回の修学旅行では、自主研修での徒歩移動が多かったほか、休憩代わりとなっていたバス移動が少なかったことが原因だと考えられる。また行程に関して生徒から、東京スカイツリー見学時間が長すぎるという指摘が多かった。後のディズニーシー観光の方を長くしてほしいという気持ちの表れなのだろう。だが実は、当初ディズニーシーに行く時刻はもっと遅かった。それを早めて今回のスケジュールになった。さらに、服装の規定を緩めてほしい

生徒アンケート結果 良かった行き先 TOP5

有効投票数 529 票

1位	ディズニーシー	369 票
2位	鎌倉・江ノ島	各 53 票
	東京自主研修	
4位	サンセットクルーズ	18 票
5位	洞窟原生林探検	14 票



2年生は10月23日から、修学旅行で関東を訪れた。A団とB団に分かれ、1日ずれての4泊5日の旅となった。コロナ対策に縛られず、昨年度より自由な行動ができるようになったなかでの修学旅行。浮彫りになった課題や継続していきたい点について、学年主任の前田裕介先生に話を聞いた。(四宮、古田、永嶋)

【毎日てんこもり!】
広い範囲を班で散策
 1日目は鎌倉班別研修だった。鶴岡八幡宮で班ごとに分かれ、約4時間の研修後に新江の島水族館で集合した。大磯プリンスホテルでの夕食時、修学旅行中に誕生日を迎える生徒と前田先生を祝うサプライズパーティーが行われた。司会も生徒が務め、全員で「ハッピーバースデートウニー」を歌った。

た。さらびやかな東京の夜景を楽しむこともできた。4日目は東京スカイツリーを観光してからディズニーシーへ行った。12時から入園し18時半から21時半までの任意の時間に班単位でホテルに帰着した。21時半近くになると、帰りのリゾートラインはかなり混雑した。5日目は横浜班別研修だ。約2時間半、中華街を中心に横浜を散策。そして帰福した。

【大満足の自主研修 多すぎても大変】
 今回の修学旅行は、班で自分たちの行動計画や予算を決める自主研修が多く取り入れられた。生徒への事後アンケート結果でも、良かった行き先ランキングの上位3つは自主研修が実施された行き先だった。なかでもディズニーシーは頭一つ抜けた人気を誇った。前田先生は「自主研修は生徒たち自身で現地を楽しんでほしい。次回以降も設けるべきだと思う。一方で、回数が多すぎて事前準備が追いつかなかったようだと反省点を挙げた。また、旅行中に使った金額は生徒によってばらつきがあった。4万円以上使用した生徒は約15%を占めた。前田先生は「食事をツアーで組まれたものではなく自主研修でとることが多かった。経済的負担がかさんだ生徒もいただろう」と話した。次回はより計画的な自主研修が求められる。

【無を調べた。近畿日本ツーリストがアレルギー対応の食事を確認し、対象者と細かく連絡を取った。様々な事態に備えるため、約1年間かけてスケジュールを組むのだ。】

【後日の修学旅行研究発表会では、各クラスの代表班が学年の前で発表を行った。歴史や再開発、推し事など、個性溢れる内容だった。】

1日目 鶴岡八幡宮 (鎌倉班別研修)

2日目 宝探しゲーム

3日目 気分は船長 (クルーズ)

4日目 東京スカイツリー 思い出の1枚 (ディズニーシー)

5日目 浅草寺雷門 (東京班別研修)

誕生日の生徒たちにケーキを (B団)

洞窟探検

近畿日本ツーリスト 思い出の旅をお手伝いします

近畿日本ツーリスト株式会社

福岡支店 福岡市博多区綱場町1-1 D-LIFE PLACE呉服町8F TEL:092-281-4891 FAX:092-281-4899

おかげ様で60周年

メガネの光和堂 KOWADO

地下鉄六本松駅前 昭和54年卒 大島達男

幸雄会 古原医院

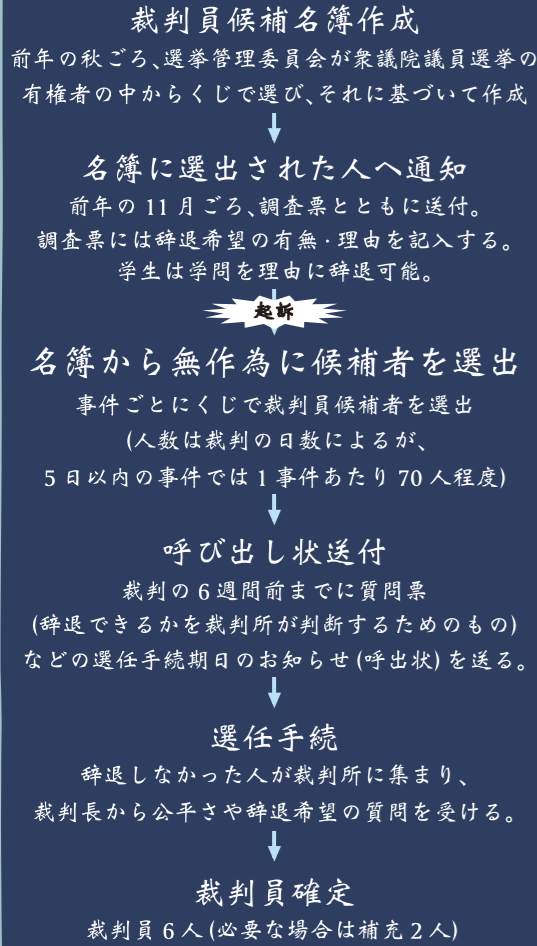
理事長 古原 雅樹 (第17期卒) 更生医療指定医

MAIL: info@kohara-clinic.com TEL: 092-431-5622

〒812-0014 福岡市博多区比恵町18-1

内科 小児科 循環器内科 アレルギー科 人工透析内科

裁判員選任の流れ



裁判官を務めた新聞部員
殺意を感じたという点も判決の根拠とした。

創業87年 和菓子処 **兔月**

白井 敏治 S34卒
白井 誠一 S54卒

大濠生限定で特典あり! 詳しくは→

裁判員特集第2弾

裁判官と慎重に裁く



模擬裁判は実際の法廷で行った。福岡県内の高校の新聞部員が検察官、弁護士、裁判官、裁判員役となり用意された台本を読んだ。シナリオは実例に基づく放火事件だ。被告人Aは、

火の手が上がっている被害者宅のゴミ捨て場でガソリンの入ったペットボトルを持った状態で警察官に目撃され、逮捕、起訴された。火は警察官によつてすぐに消火され、火事には至らなかった。ガソリンは「バイクの給油のために常に持っている」という言い分であった。証人の警察官は「パトロール中、バイクに大量の雑誌を積んだ人物を目撃し、不審に思っていた。暗くて顔はよく見えなかったが、ヘルメットの色や服装などがAとほぼ一致する。その後再びAを目撃し、すぐ横で雑誌が燃えていたのでAを犯人と思いつつ逮捕した」と話した。Aとその隣人Bのアパートは隣合

もある。事件前にAが友人に送ったムカつくアイツに「泡吹かせてやる!」とのSNSの履歴が証拠として提示された。Aはそれについて「いつも自分の動画を視聴し、言い方はきついが助言をくれていたBに、サブライズを計画していた」と説明した。判決を待つ間、弁護士、検察官、傍聴人役の生徒は数人ずつのグループに分かれて自分たちの判決を協議した。各グループに裁判員がつき、話し合いを進めてくれた。その場では全ての班が無罪にすべきという結論を出した。犯人ではあるかもしれないが有罪にするには決定的な証拠に欠ける、自分の家に燃え移るリスクから隣の家に放火するのは不自然、などが理由として挙げられた。しかし裁判官・裁判員役の生徒は「何もせず火が燃え上がるのを見ているのは不自然」として放火未遂の罪で懲役6年の判決を出した。Aに反省の色が見えない、Aから強い殺意を感じたという点も判決の根拠とした。



話し合いをリードする星野さん

同じ裁判違う見解

裁判員制度は15年前に始まったため、制度導入前の裁判を知る人も多い。裁判官の星野徹さんは「先輩によると、裁判員制度を導入してから、裁判が非常に分かりやすくなったという。導入前は法律の専門家のみが裁判に出席していたので法律用語が飛び交い、被告人や傍聴人など法律の知識が無い人は理解できないことも多かったようだ」と話した。それに比べて現在の裁判員裁判では、裁判員向け

に法律用語には説明を加えている。星野さんは新人で判事補なので、裁判を1人だけでは担当できない。そのため、3



高校生記者の踏み込んだ質問にも答えてくれた古澤さん

裁判員制度導入でわかりやすい裁判に

世代に裁判員を経験してほしい」と述べた。ただ、対象年齢の引き下げで裁判員ができるようになった高校3年生は部活動や受験で忙しくなるため、裁判員になることはおススメしないという。ベジータさんは自営業のため、時間に融通が利いたそう。

「アユミさんは「裁判員は自分にとっては荷が重かった。裁判員は辞退もできる。事件の内容を聞いて負担になると思ったり、やらない方がいい。裁判で実際に主張を聞いていると、どちらもうんと言っているように聞こえてしまうので、自分でどちらを信じるかを判断するのが辛かった」と正直な気持ち

を明かした。他にも大変だったことについてアユミさんは「裁判の時に読む資料が多かった。事件に関係するものはもちろんのこと、被告人や被害者の人間性を知るために、何十ページにも及ぶLINEやSNSのやりとりの資料を読んだ。ゆつくり目を通す時間はないが、家に持ち帰る事ができないため苦労した」と苦笑した。

評議の雰囲気について尋ねると、2人は「初めは全員知らない人同士であったため、意見が言いにくかった。しかし回数を重ねることにお互い分り、最後には談笑できるくらい仲良くなれた」と振り返った。

裁判員の安心と裁判の信用
裁判員の名前や住所など個人を特定できる情報は秘匿される。そのため裁判員の職務中は事前に決めた「裁判員ネーム」を使用する。また事件に関して裁判員とその家族への接触、脅迫は刑罰の対象となる。裁判員は裁判官と非公開で話し合う評議の内容を口外してはならない。これは評議で自由な意見を述べられるようにするためだ。評議の内容が明かされるなら、裁判員は意見を後で批判されることを恐れて率直な意見を述べにくい。秘密を守る事が裁判員の身を守り、裁判員裁判の信用を保つことにつながる。

良い経験だが負担も

裁判員を経験したベジータさんと補充裁判員を経験したアユミさん(いずれも裁判員ネーム)に取材した。2人は裁判員の候補者通知が届いたとき、裁判所からの郵便物であったため「何か悪いことをしたかな?」と戸惑ったという。裁判員になるにあたって、ベジータさんは「妻には『やめときんしやい』と言われた。しかし良い

経験になると思い、裁判員になることを決めた」と話した。ベジータさんは裁判員に選ばれてから、自分の担当する事件を調べた。また事件について深く考える裁判員の経験を通して、ニュースに興味を持つようになった。ベジータさんは「他にも経験しないと分からないことがたくさんある。若い

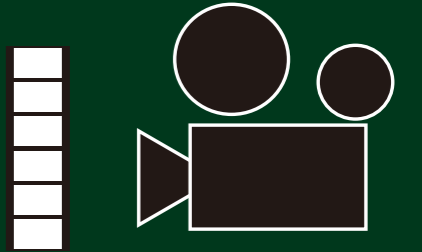
昨年1月から裁判員の対象年齢が18歳以上に引き下げられた。大濠新聞NEXUS217号では、裁判員制度について弁護士の方に取材を行い記事にした。昨年11月に新聞部の県大会で私たちは福岡地方裁判所に行き、裁判員経験者、裁判官、裁判所書記官の方々に取材した。また、模擬裁判を行った上で裁判の判決を議論した。(永嶋 大坪、白石、野見山、水沼)

您好!朋友
ニイハオ ポンユウ
〒810-0044
福岡市中央区六本松2丁目7-7 河津ビル1F
TEL092-(731)8458

精神科・内科 **油山病院**
ストレス・うつのご相談/リワーク(復職支援)
〒814-0171 福岡市早良区野芥5丁目6番37号 TEL 092-871-2261(代)
医療法人 浜江堂 理事長 三野原 義光 (S56年卒)

六本松散歩 ROPPONMATSU WALK
六本松近郊のグルメ・イベント・お得な情報を発信中! 六本松のことがもっと好きになる地域情報サイトです。
Instagram @rokusyoren
六本松商店連合会 六本松散歩 検索

いつも夢があった 大洋映画劇場



開館78年の中洲大洋映画劇場が今年3月末をもって閉館する。総務の岡部章子さんと宣伝の川島俊作さんに、現在の心境や大洋映画劇場の魅力について取材した。福岡で一番の歴史がある映画館に、閉館までにぜひ一度は訪れてもらいたい。
(秦、野見山)

知られていない 映画にフォーカス

中洲大洋映画劇場は、創業者の岡部重蔵さんの「博多の街の人々を笑顔、元気にしたい」という思いから、戦後まだ焼け野原であった中洲の街に2階建てで建設された。1946年4月に洋画専門館としてオープンし、最初はチャップリンの『黄金狂時代』が上映された。前年まで禁止されていた米国の映画ということもあり、最初の2週間で6万6000人の観客が訪れた。当時の入場料は大人4円50銭、子供3円だった。開業当時は治安が悪く映画のフィルムは郵送すると盗まれる



レトロな雰囲気漂う大洋劇場

映画の世界へ 入り込む

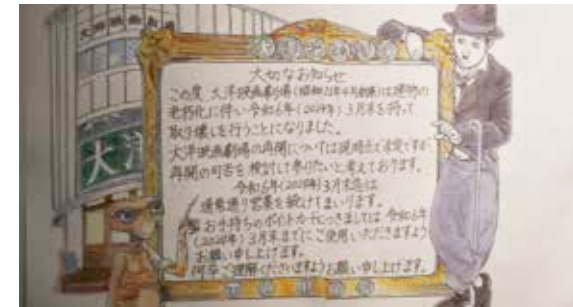
近年はスマホやパソコンからサブスクリプションサービスを利用して映画を観る人が多い。新聞部が全校生徒に行ったアンケートでも「今年、映画館に行ったことがあるか」という質問に「一回も行ってない」と答えた人は有効回答1462人中363人もいた。岡部さんに、あえて映画館を利用する魅力を尋ねると「映画の世界に没入できることだ。自宅や外だといふスマホを触りながらや、倍速で映画を観ている人が多い。しかし、映画館では作品に集中し、主人公の気持ちになつて、怒ったり、泣いたり、笑ったりというんな感情を、一緒に感じることができると熱い口調で語った。また川島さんは「映画館に行くまで『どんな映画なのか』など考える



等身大のチャップリンの看板

- 中洲大洋 さよなら興行**
～銀幕の向こうにはいつも夢があった～
- 《第1週目3月1日(金)～3月7日(木)》
『ラ・ラ・ランド』『世界にひとつのプレイブック』『コーダ あいのうた』
 - 《第2週目3月8日(金)～3月14日(木)》
『ミッドナイトスワン』『風待ち』『半世界』『映画 めんたいびりり』『映画 めんたいびりり パンジーの花』
 - 《第3週目3月15日(金)～3月21日(木)》
『機動戦士ガンダム』『機動戦士ガンダムII 哀・戦士編』『機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙編』『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア』『おくりびと』『ネネマの神様』『男はつらいよ お帰り寅さん』
 - 《第4週目3月22日(金)～3月28日(木)》
『ボディガード』『ニュー・シネマ・パラダイス』『ボヘミアン・ラプソディ』『グレイテスト・ショーマン』
 - 《第5週目3月29日(金)～3月31日(日)》
『黄金狂時代』『独裁者』『街の灯』

閉館に悲しみの声 相次ぐ
中洲大洋映画劇場は閉館と同時に建物を取り壊す。岡部さんは「歴史も長く、福岡市都市景観賞も受賞した建物を取り壊すことに心苦しさがある。しかし建物が老朽化しているため、いつかは取り壊さなければならなかった。それなら災害が発生し、お客さんに被害が及ぶ前にと思い、決断した」と話す。続けて岡部さんは「取材を受けたりお客さんが増えている様子から、この劇場が終わってしまうのだと実感する。毎日が早く、目まぐるしくなっているようだ。最終日には劇場がどうなってしまうのだろうという気持ちで今はいっぱいだ」と来たる日に不安を覗かせた。また、川島さんは「12月23日に当劇場は閉館まで100日を切った。10



閉館を知らせる自作の看板

0日という数字を見て現実味が湧いてきた。自分自身映画館で鑑賞することが好きなもので、この劇場が無くなってしまうのは寂しい。今は卒業までの日数をカウントダウンしているように感じることが多かった。取り壊しを発表した後、多くのお客さんから惜しむ声や涙が湧いてきた。更地になった後、土地がどのように利用されていくのかにも注目が集まっている。岡部さんは「チケット販売窓口に立つて、お客様とコミュニケーションを取っている際に、取り壊しに対する悲しみの声をよく耳にする。さらに『もう一度ここに映画館を建ててほしい』という声も多くいただいている。お客さんの声を聞いて、この土地を今後どうしていくのか、前向きに検討していくつもりだ」とコメントした。

作品を多様にした。基本は番組編成を委託または当劇場の雰囲気や客層を考慮して、上映作品を自分達でピックアップしている」と話した。そのためマニアックな作品も上映されており、コアな映画ファンニーズにも応えている。

オリジナルティを出せる映画劇場

中洲大洋映画劇場は独立経営で、大手映画会社に直接影響を受けない、ニシアターだ。臨機応変に作品を選べる特性を活かし、コラボも行っている。福岡アジア美術館で水俣・福岡展が開かれた際は、配給会社からの申し出て『MINAMATA』をリバイバル上映した。全国展開されている映画館では経費削減やどこでも同じサービスを提供するという方針から、広告や看板を自作することはあまりない。しかし、中洲大洋映画劇場では、ポップや看板をスタッフが自作している。岡部さんは「全国展開の大手映画館は、どこの劇場も同じ風景になりがちだ。しかし、当劇場ではお客さんが待ち



待ち時間も楽しく過ごせるスペース

医療法人 脳神経外科
クリニック高木
脳ドック
機能訓練室あり、MRI撮影対応
理事長 **高木 忠博** (43年卒)
福岡市早良区弥生1丁目4番8号
☎092-844-1211

医療法人
畠山内科胃腸科クリニック
〒810-0024
福岡市中央区桜坂1-3-31
(地下鉄七隈線「桜坂駅」より徒歩1分)
TEL & FAX 092-761-7453
院長 **畠山 定宗**

大濠中・高の学生服・ボタンダウン・シャツはお任せください!
山下商店
有限会社
代表取締役 山下倫生 (H3卒) 取締役 山下矩生 (S33卒)
企業ユニフォーム製造・販売(作業服・事務服・白衣)
お問い合わせは
092-291-1178
福岡市博多区上呉服町12-230

第26回大濠生特集

女子運動部も活躍中!

本校は13年前まで男子校だったため、男子に比べて女子の運動部の選択肢が少ない。そんななか、11月4日に開催された全国高校女子駅伝競争大会県予選に、本校から初めて駅伝部女子が出場した。また、卓球部女子も男子に比べて部員数が少ない。少人数だが活発に活動している両部活を取材した。

(古田)

駅伝部女子 部員募集中! 少人数でも励む

これまでも4人で出場できる新人大会(中部ブロック)に出場したことはあったが、県大会は今回が初出場だった。県大会出場メンバーは全員1年生だ。1区は春日カンナさん、2区は松下姫愛さん、3区は吉開千紘さん、4区は守田妃来さん、5区は古閑菜夏美さん。計約21kmを完走した。当日は曇りで、気温が19.5度と少し肌寒かった。大濠の選手たちは怪我を抱え

ていたものの、本番へ向けて調子を上げてきていた。春日さんは「スタートのコールがかかる直前になって緊張してきた」と振り返った。コースには上り坂が多く、坂と折り返し地点でペースを落とさないよう意識して走る。吉開さんは「前の選手の背中がなかなか見えないのが辛かった」と苦笑した。大きな変動はなく一貫して順位をキープし、28チーム中17位の成績を収めた。古閑さんは「みんなが頑張った成果を上げた。目標の順位に入ることができたので嬉しい」と微笑んだ。外部コーチ



息を合わせて楽しく走る

卓球部女子は1年生2名、2年生4名で活動している。卓球部男子と一緒に活動しており、交流しながら練習する。女子部長の田村奈々さん(2年)は「楽しみなながら練習ができる。卒業生もたびたび来て、練習に付き合ってくれる」と話した。活動場所が多目的ホールで、水・日曜日は休みだ。平日は16時30分から19時まで、土曜日は8時30分から12時

からは「120点だった」と言葉をかけてもらった。松下さんは自分たちの強みについて「スピード力のある中距離選手と持久力のある長距離選手がどちらもいることだ」と語る。駅伝は区間ごとに距離が異なる。そのため、選手の長所を活かして、長い距離の区間を走るか短い距離の区間を走るかを決める。

練習は主に大濠公園と平和台陸上競技場で行っている。ロングジョグや決まった距離を一定のペースで走るペース走など、走り込みが多い。守田さんは「8kmのペース走と筋トレがキツイ」と話した。

卓球部女子 試合を想定したメリハリある練習

練習メニューは大きく分けて4つ。まずは基礎打ちから始まる。相手とラリーを行いアツプをする。次に多球練習だ。球を返す人が、球を打ち出す人に狙う場所と球の回転を指定し、球を打ち返す。それを5分程続ける。試合で自分の苦手な場所・回転で球を打たれたとしても、相手に返せるようにするための練習だ。田村さんは「結構キツくて、足や腕が痛くなる。しかし、持久力と俊敏性を高められる」と語る。多球練習後は課題練習がある。1球のみを使用して、ミスせずにラリーを繋げる。ラリーの安定性を重視するのだ。大会本番で緊張



フットワークを活かし球を狙い打つ

編集後記

全国大会、県大会で様々な高校の新聞を読む機会がありました。見出し、レイアウト、写真の構図、キャプションなどが上手な新聞は、パッとめくっただけの人でも読んでみようという気になります。私は新聞発行後周りの人に「発行したから読んでー!」と言います。しかし「頼んで読んでもらう」新聞ではなく「思わず読んでしまう」新聞を作りたいと思います。見出しや写真だけ見るという人は多くいます。そこで終わらせず本

文も読みたくなるように。それを意識して新聞を作るようになりまし▼NEXUSは年4回発行するため単純計算では3ヶ月に1回の発行です。しかし春号は入学に合わせて発行するため、冬号発行から1ヶ月半しか空きません。最も制作期間が短い号です。それでも質を落とさずに発行しようと思えます▼最後になりましたが、今号もたくさんの方々の協力のもと無事発行することができました。今年も大濠新聞をよろしくお祈りします。(永嶋)

四コマ漫画 by りんごあめ



バレンタインデー過ぎちゃったな



でもホワイトデーが残ってるじゃん



いつもは照れくさくて言えないけど



愛情と感謝を伝えよう!